

国家戦略特区の特例足踏み

シェアリング躍進で不公平感 事業者の不満噴出

政府が昨年5月に決定した国家戦略特別区域で、賃貸物件に対する宿泊業の規制緩和が足踏みしている。いち早く導入へ動いた関西圏で、大阪府・市の条例が議会で否決。他区域が及び腰になっているためだ。規制緩和を機に、新たな宿泊ビジネスを描いていた事業者には「待った」がかかった格好。その間にも、エアビーアンドビーに代表される個人宅と旅行者を結ぶシェアリングサービスは日本で急拡大しており、事業者から不満の声が出ている。

特例では、宿泊期間など一定条件をクリアすれば、旅館業の許可を得ずとも賃貸物件の空室で宿泊サービスを有料で提供できる。訪日市場の拡大に伴

う客室不足、長期滞在や生活文化体験への需要に対応する試み。商機を見いだした百戦錬磨子会社のとまれるはエイブルと提携し、賃貸物件を宿泊施設として提供する枠組みを構築。早ければ昨秋のサービス開始を見込んでいた。

しかし、思わぬ形で足止めに食らい、一方のシェアリング事業者が営業地域や宿泊日数の制限なく展開している現状を受け、百戦錬磨の上山康博代表取締役社長は「本来、イコルフットイングであるべきではないか」と不満を吐露する。シェアリングは旅館業法に抵触する可能性があるからだ。また、上山社長はシェアリングが世界的潮流との認識も示し、「日本は防戦一方ではなく、



新事業では、日常を疑似体験できる部屋の供給も想定されているが… (写真はイメージ、提供/とまれる)

どう攻めるかを考える必要がある。観光業界もまずは現状を認識すべき」と指摘する。

こうしたなか、大阪府は特例の認定要件を引き上げ、「先発隊として実現へ再度取り組む」(特区推進課)。消防法上の安全性や騒音への懸念など前回の否決理由を踏まえ、立ち入り調査や騒音措置を盛り込む意向。今秋にも議会に条例を提出する計画だ。(上野良子)

じゃらん、着地型商品を販売

遊び・体験を中心に 国内OTAの取り組み加速

リクルートライフスタイルは今夏から、旅行予約サイト「じゃらんnet」で旅行先でのアクティビティが予約できるサービスを提供する。まずはマリンスポーツなどのアウトドア体験、陶芸教室などのインドア体験からサービスを開始し、品ぞろえを順次拡充する。旅先での体験といった着地型旅行商品は、iJTBも「るるぶトラベル」で3月26日から提供を開始しており、宿泊を軸に取り扱いを伸ばしてきた国内オンライン旅行会社(OTA)の取り組みが活発化してきた。

リクルートは「じゃらんnet」で宿泊施設の検索・予約をはじめ、全国各地19万件以上の観光・グルメスポット情

報を扱っており、これまでも地域や宿泊施設と共同で地域資源を活かした旅行や宿泊プランを企画してきた。新サービスの狙いについて同社は、「現地では体験できない遊びなどの情報を網羅したサイトは少ない。各地には魅力的な観光商材があるにもかかわらず、訪れる旅行者に情報を届けるのが困難で手段も限定的。じゃらんのアセットをフル活用し、地域と共に市場を盛り上げていきたい」(広報)と話す。

海や空などの各種スポーツ、雪・山・川・湖遊び、動物ふれあい体験、果物狩り、物づくり・芸術・文化体験などを対象に事業会社の参画を募る。参画にはリクルートの審査が必要で、宿泊



全国各地の魅力的なアウトドア体験やインドア体験、遊びを今夏までに取りそろえていく計画

施設と同様、予約が成立した場合にシステム利用料として手数料を支払う。サイト上では、提供する内容を事業者が自由に書き込む仕組み。

一方、消費者側は「遊び・体験」のタブから申し込む。リクエストして空きがあれば参加が可能。予約期限は事業会社によって異なるが、宿泊予約と合わせて体験も予約してもらう形を想定している。(望月弓子)